

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 元年 12月 14日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3492700079		
法人名	株式会社 エポカケアサービス		
事業所名	グループホーム阿品みどりの家		
所在地	広島県廿日市市阿品四丁目50-33 (電話) 0829-36-4388		
自己評価作成日	令和元年11月4日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3492700079-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和元年12月11日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

「ゆっくり、いっしょに、たのしく」をモットーに入居者様が心地良く過ごされている。また、家庭的な雰囲気の中で認知症の対応に気を配りながら、行事・外出・外食等を行い季節を感じて頂くことを積極的に行っている。グループホームの階のみならず、小規模多機能の方々とイベント等で関りがあり、自由に行き来している。外部の方々との繋がりも大切にし、地域・町内会の夏祭り・餅つき大会・防災訓練などの行事へも積極的に参加し敬老会、クリスマス会、そば打ち等で地域交流できるイベントも計画・実施している。同じ廿日市にある他法人のグループホームとはお互いの運営推進会議への参加やイベント行事などで交流を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所の最近の特徴的な取組みとして第一に「日常的な外出支援」「事業所と地域とのつきあい」である。即ち管理者はグループホームに対する一般的の世間の先入観を乗り越えたい思いから「開かれた事業所作り」に挑戦している。夏祭り等の地域行事・定期的な昼食外出・大型商業施設への買い物外出・他同業事業所との交流・倉敷美観地区他への日帰り旅行等、普段は行けないような場所に外出し「非日常」を楽しんでいる。第二に「運営に関する職員意見の反映」である。即ち職員の提案で、「ベッドで過ごす時間が多い利用者」の服薬を休止して元気を取り戻した。職員が楽しくなければ利用者も楽しくないと、まずは職員同士でハイタッチして始業し利用者にも同様に声をお互いに交わす事から始めると利用者からも挨拶が出るようになった経緯がある。

自己評価	外部評価	項目(4階)	自己評価	外部評価	
			4階	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	「ゆっくり、いっしょに、たのしく」を理念とし家庭的な雰囲気の中、居心地の良いホームを目指しながら、ご家族との信頼関係作りを大切にしている。	法人が策定した基本理念を所内に掲示している。理念の下に職員意見を管理者・リーダーが集約した「ユニット年間目標」を掲示・唱和して意識統一を図り、毎月・年度末に検証を行っている。その方針を踏まえた「職員年間目標」も設定し半期毎の個人面談で理念・目標の達成度を検証している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の祭り保存会に加入し地域行事に積極的に参加している。事業所が開催する行事にボランティアを招いたり地域の方に参加を呼びかけ、継続した関係が作れるよう努力している。	日頃から近所への散歩で挨拶を交わしたり、町内会に加入し夏祭り等の地域行事の運営に職員も協力したり利用者に参加している。事業所主催の花火大会への家族他の参加や大正琴・そば打ち等のボランティアの受け入れ等の相互交流、又、中学生の職場体験・幼稚園児の来訪等、世代間交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	ご家族の相談事は随時行い、地域の方には地域行事の会合や打ち上げの場、運営推進会議などで地域の人からの相談にのっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回開催し行政、地域の方、民生委員、消防団、コミュニティーの会長、他法人のグループホーム等参加されている。問題点、活動状況等を資料にまとめ報告し参加者から助言やご意見を頂き、よりよいサービスが提供できるようにしている。地域の問題や情報も頂いている。	会議は階下系列事業所と定期的に合同開催され、民生委員・コミュニティー会長・利用者がほぼ毎回、行政・消防団員・他同業事業所が時々、家族が時に参加している。会議では事業所の現況・事故報告や意見交換が行われ、そこから会議参加促進のため会議の意義を案内文で強調した経緯がある。	参加者の意見が運営にほぼ反映されているが、活発な意見交換の場とは言い難い。現在は、議事録が公表されてなく、参加していない家族への「事業所運営に関する情報」が共有されていない。今後は議事録を送付するなど会議録公表に取り組み、より多くの家族が会議に参加することを期待したい。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	担当者から、最新の情報を頂いたり困難な事例等について相談できる関係にある。今年は社協から依頼をうけ認知症養成講座を行っている。	運営推進会議には地域包括支援センター職員又は市高齢介護課職員が参加し情報共有を図っている。又、市担当者とは日頃の相談・連絡や運営推進会議の開催報告書・事故報告書等の提出を通じ協力関係を構築し、行政主催の集団指導等の研修参加や職員が認知症サポーター養成講座講師を務めた。	

自己評価	外部評価	項目(4階)	自己評価	外部評価	
			4階	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>玄関の有視化が実現していなく、全開放には至っていない。今後の課題である。しかし3F、4F、5F自由に行き来できることを心がけている。身体拘束については一定の書式もあり、生命に関わる場合・ご家族が希望される場合は説明し同意書を取り交わしている。その際も身体拘束ゼロへの努力・工夫をする。</p>	<p>研修会等を通し職員は「拘束はしない」必要性を認識し実践をしている。4、5階各フロアはエレベーターで入りし安全上テンキー・ロック対応である。センサーマット等を設置し拘束廃止に向けた側面支援を行う時もある。毎月身体拘束適正化委員会を開き事例検討等を行っている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>毎年虐待防止のホーム内研修を行っている。またケア向上委員会を作り、虐待への防止を図っている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>社会福祉協議会の「かけはし」を利用できる環境である。権利擁護の必要性を認識しながら、社会福祉協議会と連携を取っている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>ご家族あるいはご本人と契約書を読み合わせてその都度疑問点、不安を尋ね説明・納得を図っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>契約書には、苦情申し立て方法を明記し、玄関には意見箱を設置している。家族会ではご意見、ご要望をお聞きしている。また遠方に居るご家族にはメールにてご意見をお聞きしている。</p>	<p>利用者の要望は普段の会話を通じて把握し、家族とは面会時・介護計画見直し時・運営推進会議・年1回の家族会等で管理者や職員が把握する様に努めており連絡ノート等に記載し職員間で共有している。家族からの要望で屋上で干していた洗濯物を大気汚染から守るために部屋干しにした経緯がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目(4階)	自己評価	外部評価	
			4階	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	フロアミーティング、3F・4F・5F共同の全体ミーティングを最低月に1回行い、職員の意見や提案を聞き情報やケアの統一を図っている。本社職員も出席し、意見の吸い上げも図っている。	毎日の申し送り、毎月の職員会議（ユニット毎・小規模多機能事業所と合同）、年2回又は随時の個別面談等を通して意見を聞く機会を設け、介護方法・業務上の提案や個人目標の進捗状況等に対する支援体制を採っている。職員提案により、朝礼を短縮し利用者との関わり増に振り替えた例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年2回の考課、面接を行い顧問による職員面談も随時行っている。要望にはその都度聞き対応している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	月に1回のホーム内研修、新人研修、ケア向上勉強会、講演会等に参加することによりレベルアップを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	廿日市のグループホームの会合や職員の相互研修、他法人の運営推進会議への出席、イベントを合同で行ったりし、情報交換を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご本人の思いを汲み取りながら、十分話し合っている。相談し安心、信頼できる関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目(4階)	自己評価	外部評価	
			4階	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居見学の時点でご家族の意向・希望の把握、不安な事等に対して話し合うようにしている。入居後も面会時など話し合える時間を持ちコミュニケーションの取れる関係作りを目指している。各フロアに携帯が有りいつでも話し合える事ができるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人、ご家族との要望、ご意見をしっかりと聞きしている。その際に生活歴や趣味等をお聞きしアセスメントをしミーティングで報告、話し合いをする。そこで関わり方、必要としている支援を出し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	出来ることを一緒にし、満足感、充実感、存在感を持って頂きながら信頼関係を得ている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族には、毎月のご様子のお手紙、電話、面会時等で細かいことも含めて報告して、共に本人を支え合える関係作りをしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	自由に面会、外出、外泊をして頂いている。また携帯電話を持参され自由にご家族に電話をされている方もいる。面会もご姉妹、親戚、お弟子さん、聖書の勉強等多岐の方に来て頂いている。	「気軽に訪問できる事業所作り」「地域との絆」を大事にしている。家族の協力等も得ながら昔から通っていた美容院・墓参り等への外出を支援している。馴染みの場所で馴染みの顔や声と何気ない日常を楽しめる様にしている。身内の結婚式に参列したり舞踊の弟子の面会や年賀状が届く事もある。	

自己評価	外部評価	項目(4階)	自己評価	外部評価	
			4階	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	季節行事や定期的なイベント行事で各自が活躍できる場を提供している。共に支え合いながら、共に楽しみ、共に暮らす仲間として認め合っている。職員も一緒に楽しみながら、それを支えている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	いつまでも電話等で相談して頂くことができる支援をしている。また、ご家族ど出会った際は、声を掛け挨拶をしている。		
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人様の思いを汲み取りながら、ミーティングで共有するようにしている。ご家族には面会、電話等でお話しをお聞きしている。	利用開始時に利用者の習慣や好み等の情報を収集し、その後はその方に深く関わりをもつことで思いを汲み取り、家族情報も参考にしつつ連絡ノート等で共有している。受容して利用者の強みに意識を向け、趣味のゴルフに注目して家族持参のパターでパットパットゴルフに興じた立案例がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族、ご本人との聞き取りやアセスメントから把握するようにしている。情報提供があった場合もミーティング、連絡ノートにて伝達している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ケアプラン、連絡ノート等を活用し心身状態や生活ペースを把握し、共有するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目(4階)	自己評価	外部評価	
			4階	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>ケアプランを活用しながら職員がアイデアを出しケアの共有を図っている。担当者会議ではミーティングの議題で挙げ職員全員で話し合いを行っている。また毎日モニタリングを行い現状に即したケアプランとなるよう配慮している。</p>	<p>アセスメント・家族の意向等を踏まえ計画作成担当者が原案作成、担当者会議で家族に説明し、同意を得て本案としている。計画作成担当者がモニタリングの集約や計画の見直しを基本半年毎に行う。利用者の意向を踏まえ、趣味の編み物を活かした帽子作り等を目標に冬場の日課とした立案例がある。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>毎日個別に記録をつけ、フロアで共有している。気づきやケアの工夫は連絡ノートに記入し申し送っている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>グループホーム2ユニット、小規模多機能とイベントを共同で行っている。またホーム行事やボランティアが来られた日に行き来する等、日頃から交流を盛んに行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>運営推進会議で地域の民生委員の方々の提案や助言を頂き交流をしている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>月に2回の定期往診と状態変化時の主治医への連絡を随時行っており、緊急時にも迅速な対応ができています。ご家族の希望で専門医へ受診している。その際はご家族が付き添って受診する。</p>	<p>利用前の主治医の受診継続も可能だが、全ての利用者は協力医を主治医としている。内科協力医から月2回の往診や夜間対応も可能であり専門医の受診は家族の協力による。非常勤で階下小規模多機能事業所と兼務の看護師の配置や週1回協力歯科医の往診等で安心して医療を受けられる体制がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目(4階)	自己評価	外部評価	
			4階	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	職員とかかりつけ医に状況をその都度報告し、適切な受診や看護を受けられるよう支援を行っている。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	入院時に病院のMSWと連携を取り密に連絡を取っている。職員も訪問し状況の把握、相談、情報交換をしている。ご家族とも相談し情報交換を行っている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	かかりつけ医と十分な連携を取りながら対応している。またご家族、ご本人との考え、方針を汲み取りながらその都度話し合いをし思いを確認している。	要望があれば看取りを行なう方針である。入居時「医療的な対応等・看取りに関する指針」を説明し了解を得て「医療に関する事前確認書」を定期的に更新している。重度化した際は主治医・家族等で話し合い今後の方針を決め家族の意向に沿った支援を行っている。今までに数例の看取り例がある。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	急変時の職員の連携はよくとれている。繰り返し研修する必要がある。		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	年2回の避難訓練を行っている。地域の民生委員の方々にも参加していただいている。地域の消防団との連携を取りより地域の協力体制を築いていきたい。	消防署の立会いも含め、年2回の避難訓練を夜間想定や利用者も参加して行っている。運営推進会議で災害時の一般的な協力要請や地域での防災訓練に職員が参加する等、地域との協力体制構築に取り組んでいる。又、所内に災害対策として非常食・飲料水・ガスコンロ等の備蓄整備も行っている。	

自己評価	外部評価	項目(4階)	自己評価	外部評価	
			4階	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	研修にて職員に徹底できるようにしている。ご本人の尊厳を傷つけない声掛けをしている。入居者様の情報を他の入居者様の前で話さないようにしている。	研修で職員の幅広い知識の習得を図る体制もある。プライバシーについても職員は利用者目線で対応し、ケア向上委員会等で不適切な対応には指導を行い、気づく事の重要性や望ましい対応を意識できる職員育成に取り組んでいる。例えば、申し送り等でも個人情報に関わる内容は周囲に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者様との話の中で、テーマを決め外出先、食べたい食事等をお聞きし意見を発表して頂く等し積極的に働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	業務優先ではなく、ご本人が何をしたいかを大切にしている。また1日どのように過ごしたいのかをお聞きするようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	月に1回の訪問理美容師による、カット・パーマ・毛染め等希望を聞いて行っている。コーディネートや季節感の服装を支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	職員が献立を考え、できる入居者様は野菜の皮むき、カット、配膳、盛り付け、味見等を手伝って頂いている。食事はできる限り職員、入居者様と一緒に談笑しながら食べている。	献立は利用者の好みも参考に職員が立て、主に調理担当職員による三食手作りである。利用者も食器洗い等、役割に応じた日課を行い、個人用の食器や職員と共に会食することで食事が楽しめる雰囲気作りをしている。食材の買い出しや回転寿司等の昼食外出、お好み焼き等の調理レクも好評である。	

自己評価	外部評価	項目(4階)	自己評価	外部評価	
			4階	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事・水分摂取量を毎日の記録表に記入している。嚥下状態の悪い方はトロミをつけたり、キザミ食、ミキサー食を提供し、必要な栄養確保に気をつけている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>朝・昼・夕食後、本人用の歯ブラシで口腔ケアをし、ご自分で出来ない方は援助する。就寝時は義歯ケースの中に義歯を入れ洗浄している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>自尊心を傷つけない様、声掛けをしトイレを促している。排泄チェック表等を活用し排泄パターンを把握している。</p>	<p>排泄記録表で利用者の排泄パターンを把握・共有している。利用者の殆どが紙パンツであり、この状態維持や事前の声掛けで尿漏れが減少した等、自立に向けた支援を行っている。又、夜間排泄時の転倒防止の為、ベッド周辺にポータブルトイレや赤外線離床センサー設置等の環境整備もある。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>身体を動かしたり水分補給に心掛けている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めず，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>週2回の入浴を目途に，個々に応じた支援を行っている。希望があれば入浴剤の使用や浴槽で音楽を聴いて頂きリラックスして頂いている。</p>	<p>週2回の午前浴が基本だが利用者の体調や入浴習慣に合わせ好みの湯温や時間等、柔軟に対応している。利用者負担を考慮しシャワー浴等に対応することもある。半埋め込み式家庭浴槽と浴槽に移乗し易い入浴台等の環境整備や冬の柚子湯・好みの入浴剤・職員の携帯から流れる懐メロ等も好評である。</p>	

自己評価	外部評価	項目(4階)	自己評価	外部評価	
			4階	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>個々のペースで生活習慣や状況に応じて休んで頂いている。空調管理にも気をつけながら快適に休んで頂いている。眠れない方には、お茶やホットミルクを飲んだり、お話をされたりして過ごされている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>かかりつけ医、薬局と連携を取りながら細かく観察し伝達している。薬の用法、用量が変わった際は申送り、連絡ノート等にて職員同士迅速に対応している。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>ご家族、ご本人から趣味、嗜好品、楽しみ事を日々の会話の中でお聞きし体調に合わせ実現できるように努めている。他のフロアに行ったり洗濯物を干す等、気分転換を図っている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>近隣の公園への散歩や屋上散歩、地域の行事、外出支援や昼食外出を定期的に行っている。外出支援にはご家族様も同行してもらうこともあり、ご本人とご家族との思い出作りのお手伝いもさせていただいている。</p>	<p>日頃から散歩等を少人数で楽しんでいる。毎年恒例の初詣・花見等の他、夏祭り等の地域行事・定期的な昼食外出・大型商業施設への買い物外出・他同業事業所との交流・倉敷美観地区他への日帰り旅行等、家族の同伴も含め、普段は行けないような場所に外出し非日常を楽しむこともある。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>ホームでは、所持金は預からない事としている。本人様の買い物等は、一旦立て替え、まとめてご家族に請求する形をとっている。所持することで安心感のある方にはご家族了承のうえ自己管理して頂く。</p>		

自己評価	外部評価	項目(4階)	自己評価	外部評価	
			4階	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話は自由に使用でき、手紙も書かれている方が居る。ご自分で出来ない方はお手伝いをさせて頂いている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節を感じて頂くように季節の花や飾りつけをし、居心地よく過ごして頂いている。また、清潔であるよう掃除を徹底し行っている。廊下、フロア内には外出時、イベント行事時の写真を掲示している。	季節の花や正月・クリスマス他、季節行事の飾り付けや利用者とする塗り絵等の「壁掛け作品」で季節の移ろいが感じられる。感染症対策として救急車搭載オゾン発生器と同型機種を設置がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロアにソファを置いたり、席の配置に気を配り、気の合った入居者様同士で過ごせる工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人、ご家族との要望、ご意見をしっかりと聞きし、馴染みの使い慣れた物を置き居心地のよい空間作りを心掛けている。また入居者様が安全に過ごせるよう整理整頓に気をつけている。	居室にはベッド・クローゼット等が備え付けられ、冷蔵庫等、使い慣れた物や仏壇・家族の写真等、好みの物を持ち込み居心地よく過ごせる様にしている。利用者によっては夜間排泄時の転倒防止のためポータブルトイレや赤外線離床センサー等を設置し、拘束廃止に向けた側面支援を行う時もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ベッドセンサーの使用や手摺、エレベーター等があり安全且つ快適に過ごせる様にしている。		

V アウトカム項目(4階) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(5階)	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	「ゆっくり、いっしょに、たのしく」を理念とし家庭的な雰囲気の中、居心地の良いホームを目指しながら、ご家族との信頼関係作りを大切にしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の祭り保存会に加入し地域行事に積極的に参加している。事業所が開催する行事にボランティアを招いたり地域の方に参加を呼びかけ、継続した関係が作れるよう努力している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	ご家族の相談事は随時行い、地域の方には地域行事の会合や打ち上げの場、運営推進会議などで地域の人からの相談にのっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回開催し行政、地域の方、民生委員、消防団、コミュニティーの会長、他法人のグループホーム等参加されている。問題点、活動状況等を資料にまとめ報告し参加者から助言やご意見を頂き、よりよいサービスが提供できるようにしている。地域の問題や情報も頂いている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	担当者から、最新の情報を頂いたり困難な事例等について相談できる関係にある。今年は社協から依頼を受け認知症養成講座を行っている。		

自己評価	外部評価	項目(5階)	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>玄関の有人化が実現していなく、全開放には至っていない。今後の課題である。しかし3F、4F、5F自由に行き来できることを心がけている。身体拘束については一定の書式もあり、生命に関わる場合・ご家族が希望される場合は説明し同意書を取り交わしている。その際も身体拘束ゼロへの努力・工夫をする。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>毎年虐待防止のホーム内研修を行っている。またケア向上委員会を作り、虐待への防止を図っている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>社会福祉協議会の「かけはし」を利用できる環境である。権利擁護の必要性を認識しながら、社会福祉協議会と連携を取っている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>ご家族あるいはご本人と契約書を読み合わせてその都度疑問点、不安を尋ね説明・納得を図っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>契約書には、苦情申し立て方法を明記し、玄関には意見箱を設置している。家族会ではご意見、ご要望をお聞きしている。また遠方に居るご家族にはメールにてご意見をお聞きしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(5階)	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	フロアミーティング、3F・4F・5F共同の全体ミーティングを最低月に1回行い、職員の意見や提案を聞き情報やケアの統一を図っている。本社職員も出席し、意見の吸い上げも図っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年2回の考課、面接を行い顧問による職員面談も随時行っている。要望にはその都度聞き対応している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	月に1回のホーム内研修、新人研修、ケア向上勉強会、講演会等に参加することによりレベルアップを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	廿日市のグループホームの会合や職員の相互研修、他法人の運営推進会議への出席、イベントを合同で行ったりし、情報交換を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご本人の思いを汲み取りながら、十分話し合っている。相談し安心、信頼できる関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目(5階)	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居見学の時点でご家族の意向・希望の把握、不安な事等に対して話し合うようにしている。入居後も面会時など話し合える時間を持ちコミュニケーションの取れる関係作りを目指している。各フロアに携帯が有りいつでも話し合える事ができるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人、ご家族との要望、ご意見をしっかりと聞きしている。その際に生活歴や趣味等をお聞きしアセスメントをしミーティングで報告、話し合いをする。そこで関わり方、必要としている支援を出し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	出来ることを一緒にし、満足感、充実感、存在感を持って頂きながら信頼関係を得ている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族には、毎月のご様子のお手紙、電話、面会時等で細かいことも含めて報告して、共に本人を支え合える関係作りをしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	自由に面会、外出、外泊をして頂いている。また携帯電話を持参され自由にご家族に電話をされている方もいる。面会もご姉妹、親戚、お弟子さん、聖書の勉強等多岐の方に来て頂いている。		

自己評価	外部評価	項目(5階)	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	季節行事や定期的なイベント行事で各自が活躍できる場を提供している。共に支え合いながら、共に楽しみ、共に暮らす仲間として認め合っている。職員も一緒に楽しみながら、それを支えている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	いつまでも電話等で相談して頂くことができる支援をしている。また、ご家族ど出会った際は、声を掛け挨拶をしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人様の思いを汲み取りながら、ミーティングで共有するようにしている。ご家族には面会、電話等でお話しをお聞きしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族、ご本人との聞き取りやアセスメントから把握するようにしている。情報提供があった場合もミーティング、連絡ノートにて伝達している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ケアプラン、連絡ノート等を活用し心身状態や生活ペースを把握し、共有するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目(5階)	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>ケアプランを活用しながら職員がアイデアを出しケアの共有を図っている。担当者会議ではミーティングの議題で挙げ職員全員で話し合いを行っている。また毎日モニタリングを行い現状に即したケアプランとなるよう配慮している。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>毎日個別に記録をつけ、フロアで共有している。気づきやケアの工夫は連絡ノートに記入し申し送っている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>グループホーム2ユニット、小規模多機能とイベントを共同で行っている。またホーム行事やボランティアが来られた日に行き来する等、日頃から交流を盛んに行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>運営推進会議で地域の民生委員の方々の提案や助言を頂き交流をしている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>月に2回の定期往診と状態変化時の主治医への連絡を随時行っており、緊急時も迅速な対応ができています。ご家族の希望で専門医へ受診している。その際はご家族が付き添って受診する。</p>		

自己評価	外部評価	項目(5階)	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	職員とかかりつけ医に状況をその都度報告し、適切な受診や看護を受けられるよう支援を行っている。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	入院時に病院のMSWと連携を取り密に連絡を取っている。職員も訪問し状況の把握、相談、情報交換をしている。ご家族とも相談し情報交換を行っている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	かかりつけ医と十分な連携を取りながら対応している。またご家族、ご本人との考え、方針を汲み取りながらその都度話し合いをし思いを確認している。		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	急変時の職員の連携はよくとれている。繰り返し研修する必要がある。		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	年2回の避難訓練を行っている。地域の民生委員の方々にも参加していただいている。地域の消防団との連携を取りより地域の協力体制を築いていきたい。		

自己評価	外部評価	項目(5階)	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	研修にて職員に徹底できるようにしている。ご本人の尊厳を傷つけない声掛けをしている。入居者様の情報を他の入居者様の前で話さないようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者様との話の中で、テーマを決め外出先、食べたい食事等をお聞きし意見を発表して頂く等積極的に働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	業務優先ではなく、ご本人が何をしたいかを大切にしている。また1日どのように過ごしたいのかをお聞きするようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	月に1回の訪問理美容師による、カット・パーマ・毛染め等希望を聞いて行っている。コーディネートや季節感の服装を支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	職員が献立を考え、できる入居者様は野菜の皮むき、カット、配膳、盛り付け、味見等を手伝って頂いている。食事はできる限り職員、入居者様と一緒に談笑しながら食べている。		

自己評価	外部評価	項目(5階)	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事・水分摂取量を毎日の記録表に記入している。嚥下状態の悪い方はトロミをつけたり、キザミ食、ミキサー食を提供し、必要な栄養確保に気をつけている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>朝・昼・夕食後、本人用の歯ブラシで口腔ケアをし、ご自分で出来ない方は援助する。就寝時は義歯ケースの中に義歯を入れ洗浄している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>自尊心を傷つけない様、声掛けをしトイレを促している。排泄チェック表等を活用し排泄パターンを把握している。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>身体を動かしたり水分補給に心掛けている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めず，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>週2回の入浴を目途に，個々に応じた支援を行っている。希望があれば入浴剤の使用や浴槽で音楽を聴いて頂きリラックスして頂いている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(5階)	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	<p>個々のペースで生活習慣や状況 に応じて休んで頂いている。空 調管理にも気をつけながら快適 に休んで頂いている。眠れない 方には、お茶やホットミルクを 飲んだり、お話をされたりして 過ごされている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。</p>	<p>かかりつけ医、薬局と連携を取 りながら細かく観察し伝達して いる。薬の用法、用量が変わっ た際は申送り、連絡ノート等に て職員同士迅速に対応してい る。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。</p>	<p>ご家族、ご本人から趣味、嗜好 品、楽しみ事を日々の会話の中 でお聞きし体調に合わせて実 現できるように努めている。他 のフロアに行ったり洗濯物を干 す等、気分転換を図っている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。</p>	<p>近隣の公園への散歩や屋上散 歩、地域の行事、外出支援や 昼食外出を定期的に行ってい る。外出支援にはご家族様も 同行してもらうこともあり、ご 本人とご家族との思い出作り のお手伝いさせていただいて いる。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。</p>	<p>ホームでは、所持金は預から ない事としている。本人様の買 い物等は、一旦立て替え、まと めてご家族に請求する形をと っている。所持することで安心 感のある方にはご家族了承の うえ自己管理して頂く。</p>		

自己評価	外部評価	項目(5階)	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話は自由に使用でき、手紙も書かれている方が居る。ご自分で出来ない方はお手伝いをさせて頂いている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節を感じて頂くように季節の花や飾りつけをし、居心地よく過ごして頂いている。また、清潔であるよう掃除を徹底している。廊下、フロア内には外出時、イベント行事時の写真を掲示している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロアにソファを置いたり、席の配置に気を配り、気の合った入居者様同士で過ごせる工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人、ご家族との要望、ご意見をしっかりと聞きし、馴染みの使い慣れた物を置き居心地のよい空間作りを心掛けている。また入居者様が安全に過ごせるよう整理整頓に気をつけている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ベッドセンサーの使用や手摺、エレベーター等があり安全且つ快適に過ごせる様にしている。		

V アウトカム項目(5階) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所 グループホーム阿品みどりの家

作成日 令和2年2月1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の内容精査、資料の掲示方法、ご家族の会議への参加を増やしていく。	活発な意見交換の場にしていき、より多くのご家族に出席していただき、事業所運営に関する情報の共有を行う。	意見交換ができる時間を設け、ご家族へ参加の案内を毎月の請求書と一緒に送付する。手取りやすい場所に資料を掲示。	2ヶ月
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。